

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376000317		
法人名	医療法人翔友会		
事業所名	グループホームおり姫		
所在地	愛知県額田郡幸田町大字大草字山添15		
自己評価作成日	平成28年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyouCd=2376000317-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気のいい日はいつも玄関先に出てもらい日光浴をしながら世間話をしたり風船バレーや輪投げ等のレクリエーションを行っており利用者様には出来るだけ日の光を浴びて頂くようにしております。また、居室内で利用者様のペットを飼う事も可能ですので動物とのふれあひも毎日あります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はホームの理念『笑顔・安心・共に過ごす』に沿い、利用者に笑顔・楽しさを感じてもらう事を第一に考えて取り組んでいる。職員は理念を実践し、『利用者の笑顔の前に自分の笑顔、『笑顔を絶やさないように』を心掛けている。家族アンケートに『どんな時でも笑顔で接してくれる』『父親の我がままを良く聞いてくれる』『父親に柔らかに接してくれる』等のコメントがあり、理念に沿った職員の取り組みを、家族も称賛の言葉で受け止めている。
今年度は特に外出に『力』を入れており、今まで室内レクが多かったが、外に出る事に重点を置き、たとえ天気が悪くても軒下に出てもらい、室内にばかりいない様になっている。毎日の日課に、午前中『日光浴』とスケジュール化し、1日1回は外気に触れる様にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念を掲げ常に見る事ができる状態にしており職員と理念を共有し理念を元に実践に繋げている事ができている	理念を正面玄関に掲げ、職員・家族共に共有している。家族アンケートに『職員穏やか』『アットホーム』『父親に柔らかく接する』『何時も笑顔』等の言葉が多く、理念『笑顔・安心・共に過ごす』が実践されている。	理念は周知され、職員が個々の思いで実践している。理念を展開したホームの目標(年度・月次)を掲げ、職員が目標達成のため同じ方向に進むベクトル合わせを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元中学生の職場体験の受け入れ定期的な地域ボランティアの方に参加して頂いている	町内会に加入し、祭りの子供神輿・獅子舞がホーム玄関まで来る。公民館での催し物や地域行事に参加している。併設ホームとの合同夏祭りには地域の方々を招待し、中学校の職場体験も受け入れている。	認知症ケアや関わりについて地域の方々へ啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担っていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サロンを開催し地域包括と連携して認知症の理解を深めている。また次回からは認知症カフェとして開催する予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣に同法人の施設があり合同で開催している会議では福祉課の方からの情報や御家族様からの質問も受け付けており得た情報をサービス向上に活かしている	町の職員、民生委員、家族、地主、管理者のメンバー構成で、隣接ホームと合同で運営推進会議を年6回開催している。町職員の協力の下、日曜日開催によりメンバーの出席も良好である。	地域の方々が出席しているので、報告・情報交換に留まらず、具体的なホームの課題を話し合い、多くの意見の出る継続性のある会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場の福祉課の方の参加もありその都度情報の交換等行っている	運営推進会議は、日曜日開催であるが、町職員は必ず参加している。行政単位が小さい事もあり、相互に協力し合う関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事をしたら身体拘束にあてはまるかスタッフ間で共有して身体拘束の無いケアを目指している	管理者は、どんなに重度な利用者であろうと、その人らしい暮らしを支援しようとの思いが強い。事務室が玄関の正面に設けられている事から、玄関は日中施錠されていない。単独外出にも制止する事なく、見守り(後をつけて行く)で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	このところ続いている報道を重く受け止め職員にストレスに対するアンケートを取り職員がストレスを溜めていないか気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている利用者がおり制度について必要な知識をその都度学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解除後はお手紙を送らせていただき、不安や疑問があれば連絡していただくよう伝える		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を家族会としても活用し、家族の意見を聞き事業所内では、全体会議を通じて運営に反映させている	家族の来訪は頻繁で、日常の来訪・運営推進会議・各種行事等、家族と話す機会は多く、申し送りノートや会議の場で職員間で情報共有している。利用者・家族の要望で、ペットと共に入居している利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に全体会議の際に職員の意見・提案を受けける場としているが、必要であれば、管理者はいつでも職員の話も聞いている	月1回の全体会議はカンファレンスが主体で、日常業務の中で職員意見の聞き取りを行っている。職員からの提案で1日の流れを見直し、タイムスケジュールの変更を行った事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働ける時間や曜日を把握し本人からの意思も尊重し無理の無いような勤務を組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護のスキルアップを目指し職員には研修に参加して日々の介護に活かせるように研修への参加を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会中三河ブロック交流会に参加している。同法人内に他にいくつかの事業所があり、職員の異動等で学びサービスの質の向上に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや些細な行動にも気を配り本人が少しでも安心できるような環境を作り安心して頂けるような関係を作るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学時等にも話し合いを行う また面会時に近況報告等行うことにより関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の見学時等にも話し合いを行う また面会時に近況報告等行うことにより関係づくりに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	よりよい関係ができるように集団や個別対応で支援していくように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしていけるように話し合いの場を作ったり面会時には御家族様と利用者様だけで過ごしていけるように空間作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知り合いがいるお店に行って買い物をしたり隣にいる顔なじみの方に会いに行ってお話をさせていただいている	家族と一緒に友人が来訪し、三河万歳の弟子達の来訪もある。馴染みの美容室や出身地のお祭り、墓参り、自宅等には、家族の協力で出かけている。これらの馴染みの関係継続を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまくコミュニケーションが取れない方などは職員が間に入り、利用者同士の関わり合いを持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様の御家族様も夏祭りに参加して頂くなど必要に応じて連絡を取りフォローできるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを話し合いで聞き出し出来る限り意向にそった生活をして頂けるよう検討している	思いの誘い水として、写真による回想法をレクに取り入れている。懐かしいものは記憶に残っており、『釜戸・おひつ』を見ては『火をたくのは大変』、『太鼓』を見ては『お祭りで笛ふいた』等、会話が弾んでいる。	直ぐ実現できる『思い』を把握して叶えた事例は多くある。時間がかかったり、計画的に進める必要のある『思い』を埋没させず、介護計画を立てて実現して行く事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人情報や面会時にご家族に伺いながらご本人との話の中から把握していくと努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で出来る事出来ない事を把握し本人様の持っている力に応じた生活を送って頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を通じ話し合いの場を作ったり面会時に家族へ近況報告を行ったり変化のあった利用者様の家族に電話での報告とその対応を伝え介護計画に反映させている	3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎や状態の変化時に計画の見直しを行っている。カンファレンスで職員間の話し合いを行い、計画に反映させている。	短期目標・サービス提供内容を達成可能な具体的内容まで落とし込み、家族・利用者・職員が達成感を味わえる計画になる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録をとり気付いた事等は全体会議にて職員同士で共有し見直しなどの話し合いをして実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスだけではなく本人からのニーズに対応できるよう柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店などで利用者様を連れて買い物に行ったり本人の希望で喫茶店に行く時は計画を立て事故の無いように楽しんで頂く支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名の利用者が、家族の希望により入居前のかかりつけ医に通っている。その他の利用者は協力医が主治医となり、看護師を中心に適切な医療を受けられるよう支援している	殆ど(1名除く)の利用者がホーム協力医を主治医とし、看護師を中心に適切な医療が受けられるように支援をしている。専門医等は原則家族対応であるが、困難な場合は職員が通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に2回出勤しており、職員は気づき等を伝え、必要な医療が迅速に受けられるよう支援している		
32		○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった時は病院関係者と情報交換をして症状の把握をしてお見舞いと同時に近況報告を受けるようにしている。退院が迫ってきた際は早めの通達をお願いして帰ってきてもすぐに職員が対応できるように準備している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された際は御家族と十分な話し合いを行い理解して頂き今後事業所でどういった生活を送って頂くか方針を話し合いを行っている	管理者・職員共に、終末期への流れを自然の流れと受け止めている。医療行為が必要になる等が発生しない限り終末ケアを実施し、多くの看取りを行って来た。その時が来たら、主治医・家族・管理者で話し合い、最善の方法で対処する考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていないが時間のある時に職員同士で危険のある方について話し合いをして緊急時に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と消火訓練を行っている。今後は訓練の回数を増やし他の災害に対応できるようにしていきたい	夜間・日中想定を交互に、年2回の防災訓練を隣接ホームと合同で行い、通報・消火・避難の訓練を行っている。火災時は駐車場へ、水害時は隣接ホーム2階へ避難する事としている。3日分の食料備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない一言から相手を傷つけてしまう事もあるので対話する際は相手を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう気を付けている	会長の方針により、尊厳に配慮し、声掛け・対応は、利用者を敬う気持ち・意識を大切にしている。管理者は職員に敬語を使うように指導し、親しくも馴れ馴れしくなり過ぎない様に日頃から気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から訴えがあった時は選択しを多くし過ぎず無理なく自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先して訴えがあった際は手を付けている仕事をいったん止めて本人の要望を優先して聞くように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフと一緒に洋服選びをしてその人らしいおしゃれができるように努めている。また、大きな行事がある際は本人の要望を聞いてお化粧をしておしゃれをして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はスタッフが主体で行っているがお皿拭きやテーブル拭きをお手伝いして頂き出来る方には食器の片付けも利用者様本人で片付けて頂いている	食事介助が6名と多いため、2ユニット16名が一同に会しての賑やかな食事風景である。体調の良い利用者が、『力量・要望』に合わせて、配膳・下膳・食器拭き・テーブル拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量や様子などを記録にとり、その方に適した食事を提供することに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口の中を清潔に保てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化し、立位が取れない利用者についても、二人で介助し極カトイレでの排泄に努めている	寝たきりの利用者も1日1回は便座に座ってもらう様に支援をし、利用者の様子を見ながらの声かけ・誘導をして失禁の回数減少に努めている。失禁の際にも、利用者の羞恥心に気を付けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはお腹をマッサージしヨーグルトや牛乳等乳製品を摂取して頂いて外での散歩等で腸が動くように促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日や時間帯を決めてはいるが本人が入りたいと要望があれば入浴できるようにしている	週2回の入浴を原則とし、午前中は見守り中心の利用者、午後は重度化した利用者を2人介助で支援している。利用者の要望で洗顔料を備え付け、『菖蒲湯・柚子湯』等の工夫で季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で判断できる方は自分でペースで休息をとって頂いてそうでない方は状態を見ながら対応できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援はできているが副作用等は新しい薬が処方される時に医師に聞いたりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	犬を飼っている方には犬の散歩を本人様が望むときにして頂き、カラオケが好きな方にはレクや大きな行事の際唄って頂いて楽しんでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	真夏や真冬はなかなか外出に連れていけないが玄関先に出て暑い日は日陰での日光浴や寒い日には車からは降りないがドライブをして室内から出来るだけで日光に当たって頂くように支援している。またワックスがけの日に御家族様を交えて日帰り旅行計画している	日常的には、近くのスーパーへの買い物、ホーム周辺の散歩、毎週来る移動パン屋さんへの買い物、玄関前での外気浴(日光浴)等を楽しんでいる。季節的には、花見(梅・桜・四季桜等)や家族も参加する日帰り旅行(豊橋動物園)等に出かけている。	家族アンケートで最も厳しい評価を受けた項目である。利用者の外出状況(外気浴・近隣の散歩等)を『便り』等で、より理解しやすく伝える工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて金銭の所持管理をして頂いて買い物の際も自分のお金で買い物をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてまず職員が希望する所へ電話に話したい人へ代わって頂いてから本人とお話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにレクで作った貼り絵や外出や行事での写真を廊下やフロアに張り出している。また写真は利用者様と共に気に入った写真を選び切り抜いて貼り出している	隣接ホームとの間にベンチ・テーブルが置かれ、日光浴や歩行運動の恰好の場所となっている。玄関・リビングの共有の空間には、利用者・職員の笑顔の写真をはじめ書道・貼り絵等の作品が掲示され、季節感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	正面玄関にベンチを配置し、利用者によっては、外や飾ってある作品を眺めゆったり過ごしている屋内ではソファに腰かけてゆっくりTV鑑賞できる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に本人様が昔から使っていた馴染みのあるものや自宅の委部屋に置いていたものなどを置いて安心して暮らせるようにしている。またベットも自身で飼う事ができるなら居室にて一緒に過ごして頂いている	居室には利用者の使い慣れた家具・テレビ等の馴染みのものが持ち込まれている。家族の写真や職員の寄せ書きの色紙が飾っており、個性あふれる居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内では地震の居室の目印になるように顔写真を貼り本人の居室と認識していただいているようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376000317		
法人名	医療法人翔友会		
事業所名	グループホームおり姫		
所在地	愛知県額田郡幸田町大字大草字山添15		
自己評価作成日	平成28年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyouCd=2376000317-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気のいい日はいつも玄関先に出てもらい日光浴をしながら世間話をしたり風船バレーや輪投げ等のレクリエーションを行っており利用者様には出来るだけ日の光を浴びて頂くようにしております。また、居室内で利用者様のペットを飼う事も可能ですので動物とのふれあひも毎日あります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念を掲げ常に見る事ができる状態にしており職員と理念を共有し理念を元に実践に繋げている事ができている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元中学生の職場体験の受け入れ定期的な地域ボランティアの方に参加して頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サロンを開催し地域包括と連携して認知症の理解を深めている。また次回からは認知症カフェとして開催する予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣に同法人の施設があり合同で開催している会議では福祉課の方からの情報や御家族様からの質問も受け付けており得た情報をサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には役場の福祉課の方の参加もありその都度情報の交換等行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事をしたら身体拘束にあてはまるかスタッフ間で共有して身体拘束の無いケアを目指している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	このところ続いている報道を重く受け止め職員にストレスに対するアンケートを取り職員がストレスを溜めていないか気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている利用者がおり制度について必要な知識をその都度学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解除後はお手紙を送らせていただき、不安や疑問があれば連絡していただくよう伝える		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を家族会としても活用し、家族の意見を聞き事業所内では、全体会議を通じて運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に全体会議の際に職員の意見・提案を受け取る場としているが、必要であれば、管理者はいつでも職員の話を受けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働ける時間や曜日を把握し本人からの意思も尊重し無理の無いような勤務を組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護のスキルアップを目指し職員には研修に参加して日々の介護に活かせるように研修への参加を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会中三河ブロック交流会に参加している。同法人内に他にいくつかの事業所があり、職員の異動等で学びサービスの質の向上に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや些細な行動にも気を配り本人が少しでも安心できるような環境を作り安心して頂けるような関係を作るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学時等にも話し合いを行う また面会時に近況報告等行うことにより関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の見学時等にも話し合いを行う また面会時に近況報告等行うことにより関係づくりに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	よりよい関係ができるように集団や個別対応で支援していくように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしていけるように話し合いの場を作ったり面会時には御家族様と利用者様だけで過ごしていけるように空間作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知り合いがいるお店に行って買い物をしたり隣にいる顔なじみの方に会いに行ってお話をさせていただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でうまくコミュニケーションが取れない方などは職員が間に入り、利用者同士の関わり合いを持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様の御家族様も夏祭りに参加して頂くなど必要に応じて連絡を取りフォローできるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを話し合いで聞き出し出来る限り意向にそった生活をして頂けるよう検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人情報や面会時にご家族に伺いながらご本人との話の中から把握していることと努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で出来る事出来ない事を把握し本人様の持っている力に応じた生活を送って頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を通じ話し合いの場を作ったり面会時に家族へ近況報告を行ったり変化のあった利用者様の家族に電話での報告とその対応を伝え介護計画に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録をとり気付いた事等は全体会議にて職員同士で共有し見直しなどの話し合いをして実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスだけではなく本人からのニーズに対応できるよう柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店などで利用者様を連れて買い物に行ったり本人の希望で喫茶店に行く時は計画を立て事故の無いように楽しんで頂く支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名の利用者が、家族の希望により入居前のかかりつけ医に通っている。その他の利用者は協力医が主治医となり、看護師を中心に適切な医療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に2回出勤しており、職員は気づき等を伝え、必要な医療が迅速に受けられるよう支援している		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった時は病院関係者と情報交換をして症状の把握をしてお見舞いと同時に近況報告を受けるようにしている。退院が迫ってきた際は早めの通達をお願いして帰ってきてもすぐに職員が対応できるように準備している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された際は御家族と十分な話し合いを行い理解して頂き今後事業所でどういった生活を送って頂くか方針を話し合いを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていないが時間のある時に職員同士で危険のある方について話し合いをして緊急時に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と消火訓練を行っている。今後は訓練の回数を増やし他の災害に対応できるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない一言から相手を傷つけてしまう事もある所以对話する際は相手を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう気を付けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から訴えがあった時は選択しを多くし過ぎず無理なく自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先して訴えがあった際は手を付けている仕事をいったん止めて本人の要望を優先して聞くように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフと一緒に洋服選びをしてその人らしいおしゃれができるように努めている。また、大きな行事がある際は本人の要望を聞いてお化粧をしておしゃれをして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はスタッフが主体で行っているがお皿拭きやテーブル拭きをお手伝いして頂き出来る方には食器の片付けも利用者様本人で片付けて頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量や様子などを記録にとり、その方に適した食事を提供することに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口の中を清潔に保てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化し、立位が取れない利用者についても、二人で介助し極カトイレでの排泄に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはお腹をマッサージしヨーグルトや牛乳等乳製品を摂取して頂いて外での散歩等で腸が動くように促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日や時間帯を決めてはいるが本人が入りたいと要望があれば入浴ができるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で判断できる方は自分でペースで休息をとって頂いてそうでない方は状態を見ながら対応できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援はできているが副作用等は新しい薬が処方される時に医師に聞いたりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	犬を飼っている方には犬の散歩を本人様が望むときにして頂き、カラオケが好きな方にはレクや大きな行事の際唄って頂いて楽しんでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏や真冬はなかなか外出に連れていけないが玄関先に出て暑い日は日陰での日光浴や寒い日には車からは降りないがドライブをして室内から出来るだけで日光に当たって頂くように支援している。またワックスがけの日に御家族様を交えて日帰り旅行計画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて金銭の所持管理をして頂いて買い物の際も自分のお金で買い物をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてまず職員が希望する所へ電話に話したい人へ代わって頂いてから本人とお話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにレクで作った貼り絵や外出や行事での写真を廊下やフロアに張り出している。また写真は利用者様と共に気に入った写真を選び切り抜いて貼り出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	正面玄関にベンチを配置し、利用者によっては、外や飾ってある作品を眺めゆったり過ごしている屋内ではソファーに腰かけてゆっくりTV鑑賞できる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に本人様が昔から使っていた馴染みのあるものや自宅の委部屋に置いていたものなどを置いて安心して暮らせるようにしている。またベットも自身で飼う事ができるなら居室にて一緒に過ごして頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内では地震の居室の目印になるように顔写真を貼り本人の居室と認識していただけるようにしている		